全国測量技術大会２００３の報告

大分支部　　倉本　克資

去る６月１１、１２、１３日　東京ビッグサイトにおいて開催された「全国測量技術大会２００３」に、大分協会から３名が出席させていただきました。

「全国測量技術大会２００３」は東京ビッグサイト レセプションホールＡ・Ｂ 及び１０１・１０２会議室を会場として行われ、会期中併せて西４ホールにおいては測量・設計システム展２００３年（こちらは測量・設計機器や関連ソフトの展示会）が催されております。

私たち３名が出席したのは後半の２日間であり、その中からシンポジウム「地籍データとＧＩＳ」について報告させていただきます。

「地籍データとＧＩＳ」（１２日１４時～　レセプションホールＢ）は、６名の講師の先生を迎えて行われました。

まず、司会である山村悦夫氏（北海道大学教授・地理情報システム学会副会長）より「地理情報システムと全地球測位システムに基づく地籍調査の推進」と題して、２００２年４月の日本測地系から世界測地系への移行は、明治６年の地租改正以来の大改革であり、全国を世界測地系へ改正するためには、全地球測位システム（ＧＰＳ）により地籍調査を行うことが急務であること。また、米国が１９８０年代にＧＩＳとＧＰＳにより、各種台帳・地図及び統計データを重要な国土空間情報基盤として電子地図化することにより、行財政の改革を推進してきたことをあげ、本国においても、行財政改革と経済再生のためには市町村への統合型ＧＩＳの導入が不可欠である。との話がありました。

次に、国土交通省　土地・水資源局　國弘　実氏より「地籍調査とＧＩＳ」というタイトルで、地籍調査が測量技術と情報技術の進歩に合わせ、図面での管理から数値情報での管理へと移行したことにより、地籍調査成果をより円滑にＧＩＳに利用できるようになったこと。そして実際に地籍活用ＧＩＳを利用している地方自治体の例の紹介がありました。

その後、東明　佐久良氏（大妻女子大学教授）から、地籍を利用した多目的地籍ＧＩＳシステムの可能性について。また、（財）資産評価システム研究センターの小原利明氏より固定資産現況調査業務にからめた、地籍調査と統合型ＧＩＳについての講演がなされました。

午後からのシンポジウムでもあり、徐々に緊張も緩み始め、瞼がおもくなりはじめたころ講師として登壇されたのが、千葉県市川市建設局都市政策室の大場　亨氏でありました。タイトルは「市川市内の基準点の世界測地系への移行方法について」です。

まず、市川市では市内を通過する、東京外郭環状道路（国主体）の用地買収などが、平成１９年の共用開始を目指して行われていること。それに関連した道路・下水道の整備のため、国・県・市川市がそれぞれ協調して事業を進める必要が生じ、このため各主体が統

一的に世界測地系へ移行することを取り決めたこと。そして、これを機会に市川市は、地籍調査に着手するに至ったこと。等、あらましの説明の後、市川市内の既存の基準点を利用することにより、世界測地系の基準点整備を、いかに効率よく行うことができたか。また、このような世界測地形への移行をおこなうことによる行財政面での効果について、実際に事業にかかわった方ならではの、完結で分かりやすく、かつ情熱を持ったお話しを聞くことができ、目がさめる思いがしました。

最後の講師、越智諸島上水道企業団事務局長の越智純一郎氏からも、大三島町におけるＧＩＳ事業について、その取り組みへの動機、計画及び実施における留意点、事業実施状況と活用例及びその広がり、に関する現場からの報告を聞くことができました。

その後、山村悦夫氏の司会のもと、若干の意見交換・質疑応答を経てシンポジウムは終了いたしました。

さて、当日の会場に、地方公共団体の職員の方がどの程度いらしていたか不明でありますが、特に市川市の大場　亨氏の講演内容は非常に興味深く、今後ＧＩＳ事業に取り組んでいかれるであろう、我が大分県内各市町村の関係職員の方々にも機会があれば是非聴いていただきたいものだと思わせられるものでした。

おしまいに、今回「全国測量技術大会２００３」への出席の機会をいただきましたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。